

第 12 期 pES club シナリオ 2

平成 25 年 2 月 17 日
東京北社会保険病院 総合診療科
南郷 栄秀
<http://spell.umin.jp>

あなたは、名羅手部総合病院内科に勤務する 4 年目後期研修医です。午前中の初診外来を終えて医局に戻って来ると、指導医の楠力雷先生が昼食をとっているところでした。

楠力先生「お！お疲れさん」

あなた「あ、先生、お疲れさまです。ていうか、本当に疲れました」

楠力先生「あ、外来だったか。今日も多かったみたいだね」

あなた「インフルエンザが流行っていますからね。でも、それより大変だったのが、忍知翔さんという 75 歳の男性だったんですよ」

楠力先生「ああ忍知さんね。よく知っているよ。普段高血圧で部長の外来に定期通院している人でしょ？」

あなた「そうなんです。って何で先生、ご存知なんですか？」

楠力先生「有名だよ。あれが心配、これが心配って言って、しょっちゅう初診外来に来るからね。みんな知っているさ。で、今日は何だったの？」

あなた「そんな有名人だったんですね。いや、なんでも最近忘れっぽいから認知症じゃないかって、心配なので検査をして欲しいって。だって、75 歳ですよ？病気じゃなくても忘れますよ。私だってよく人の名前とか思い出せませんよ」

楠力先生「まあ、でも心配なんだろう。で、どうしたの？」

あなた「検査をして欲しいとおっしゃるので、MRI のオーダーは入れておいたのですが、でもその前に長谷川式で評価しようと思いました」

楠力先生「そうだね。長谷川式で評価するのがいいね。で、何点だったの？」

あなた「それが... やっているうちに、そんな簡単な質問をするなんて、俺を馬鹿にしているんだろう！ってキレられちゃいました。だから、点数はわかりません」

楠力先生「そうだったんだ。それは大変だったな」

あなた「だいたい、長谷川式ってやるの大変じゃないですか？先生、もっと簡単にできる認知症の検査は無いんですか？」

楠力先生「うーん、そうだな。Mini-Cog というのがあるよ。これは長谷川式に似た MMSE の簡略版で、それなりに悪く無いと思うよ。」

そこであなたは、忍知さんに Mini-Cog で検査することで認知症かどうかを診断できるのか、さっそく調べてみることにしました。

第 12 期 pES club シナリオ 2 (追加シナリオ)

平成 25 年 2 月 17 日

東京北社会保険病院 総合診療科

南郷 栄秀

<http://spell.umin.jp>

忍知さんは真面目で几帳面な性格です。友達の名前や物の名前を思い出せないことを妻に指摘され、確かにその通りだと思って、認知症なのではないかと心配になりました。自分でも最近、物忘れが激しく、人の顔や名前だけでなく、今朝何を食べたのかも思い出せないことが気になっていました。名前を思い出せずちょっとイライラして妻に当たることはありますが、それ以外は特に日常生活に支障をきたしてはいません。家事はすべて妻が行っていますが、ADL は自立しています。

忍知さんは、高血圧で内科部長の外来を受診しているだけで、他の診療科には受診していません。アムロジン OD 5mg1 錠分 1 とタナトリル 5mg1 錠分 1 を服用中ですが、血圧の値に特に大きな変動はありません。ほとんど飲酒はしませんが、喫煙は 20 歳から 60 歳まで、1 日 20 本吸っていました。糖尿病、脂質異常症や心疾患はありません。特に運動はしていませんが、肥満ではありません。

忍知さんの母親には、認知症と高血圧の両方がありました。父親は高血圧と糖尿病でしたが、認知症ではありませんでした。忍知さんは、物忘れがひどくなることで母親のように徘徊したり、大声を出して周囲に迷惑をかけたりの挙句、しまいには寝たきりになってしまうのではないかと心配しています。

忍知さんは妻と 2 人暮らしです。長男と長女はそれぞれ都内に居を構えて住んでいます。忍知さんと家族の関係は特別悪いものではありません。

外来スタッフは正直なところ、忍知さんが来ると、あ、また来たのね、と少しぞんざいな対応をしていたかも知れません。